

詩

かねこ

金子みすゞ



長門市
(1903～1930)

提供：金子みすゞ著作保存会

金子みすゞ（本名、テル）は、大正末期から昭和の初めにかけて、主に雑誌『童話』に投稿。選者の西條八十に「若き童謡詩人の中の巨星」と称賛されたが、二十六歳の若さで、この世を去ったため、幻の童謡詩人と語り継がれていた。

昭和五十七年、児童文学者・矢崎節夫氏の十六年にわたる努力により、五百十二編の遺稿が発見され、広く知られるようになった。
(草場睦弘)

【主な著作】

『金子みすゞ全集』（JULIA出版局、昭和59年）

『わたしと小鳥とすずと』

(JULIA出版局、昭和59年)

『ほしとたんぽぽ』（JULIA出版局、昭和60年）